

西東京市若者実態調査 に基づく考察

令和7年7月

調査目的

- ・若者の家計の状況や生活の不安要素、必要とされる支援策など、若者の実態をより詳細に把握し、経済的な支援策や不安の軽減策の検討に当たっての参考とする。
- ・若者が希望する将来に向かって、ライフプランを進める上での希望と現実のギャップについて把握し、必要な支援の検討に当たっての参考とする。

調査方法



対象者

西東京市内在住
18歳から39歳
までの男女



抽出方法

住民基本台帳よ
り無作為抽出



調査方法

郵送にてアン
ケート(WEB回答
用二次元コード
付き)を配布し、
WEB方式で回答



調査期間

令和7年7月
17日～31日

回収状況

発送数	回収数	回収率
2,000通	420件	21%

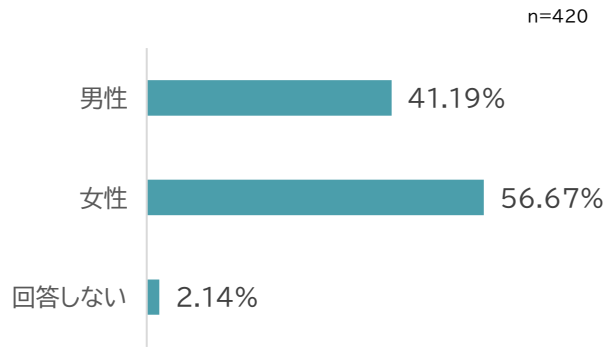
調査項目

基本属性	結婚に関する考え	子どもに関する考え
住居費	奨学金	市への愛着
地域活動	居留意向	

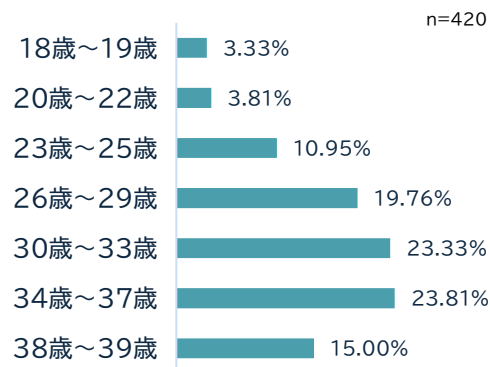
項目	説明
設問	【単数回答】(1つを選択)、【複数回答】(複数を選択)の別を付しています
グラフの「n」	「Number of case」の略で構成比算出の母数(回答者数)を示しています。
図表	原則として回答者の構成比(百分率)で表現しています。「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることを表します。
百分率による集計	回答者数(該当質問においては該当者数)を100%として算出し、本文及び図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記します。このため、すべての割合の合計が100%にならないことがあります。また、複数回答(複数を選択)の設問では、すべての割合の合計が100%を超えることがあります。
図表の記載	調査票の質問文、選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。
クロス集計	見やすさを優先し「0.0%」や1%未満の数値表示を省略しているものがあります。

03 基本属性

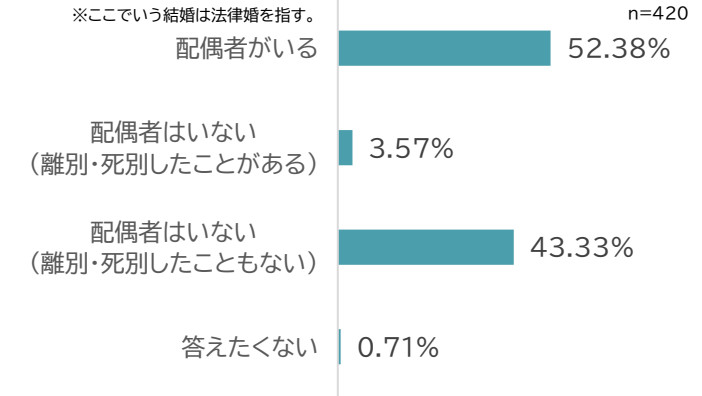
Q.性別【単数回答】



Q.年齢【単数回答】



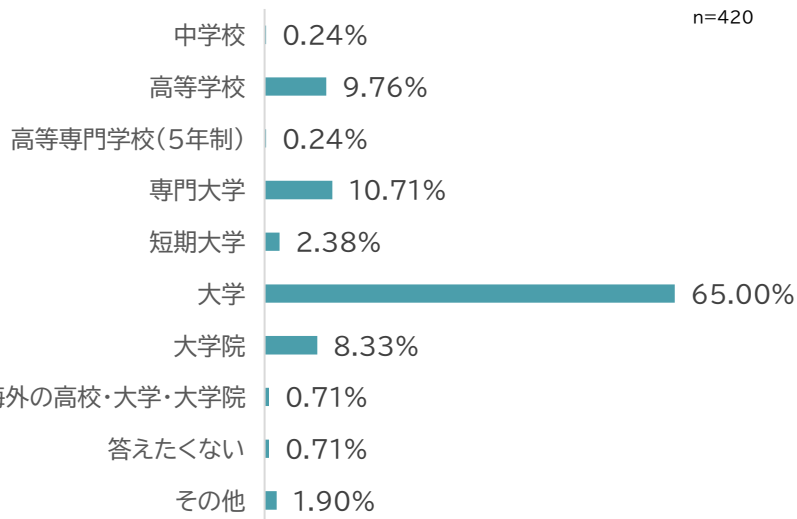
Q.配偶者の有無【単数回答】



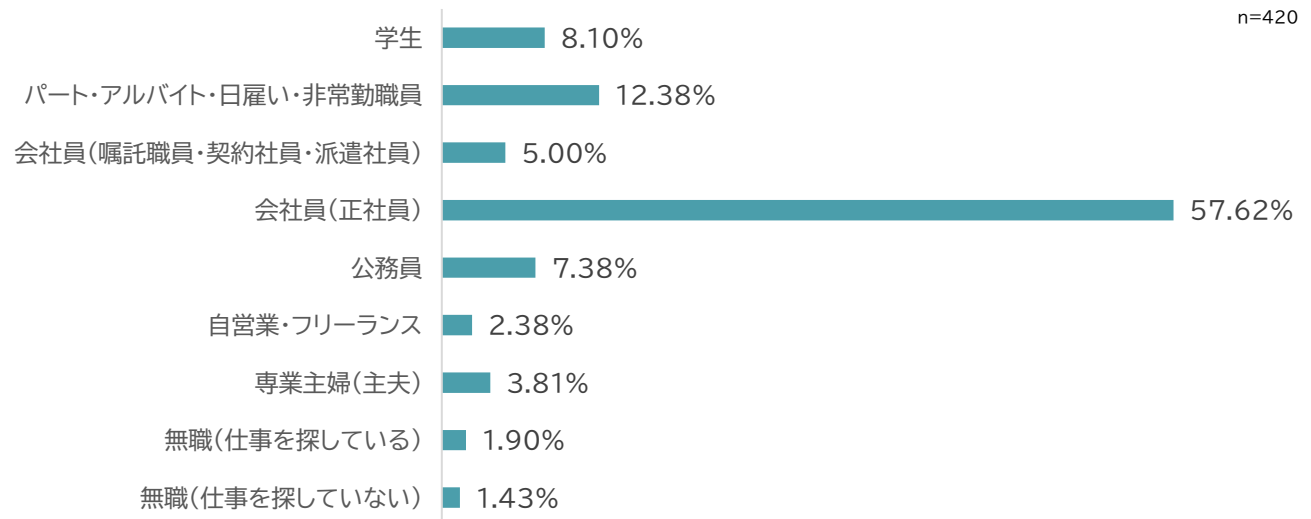
回答者の男女比(または配偶者の有無)のほぼ均衡しており、年齢分布は20代後半～30代が中心で18～22歳は少数。26～37歳が全体の約65%を占める。

Q.最終学歴【単数回答】

※中退も卒業と同じ扱い

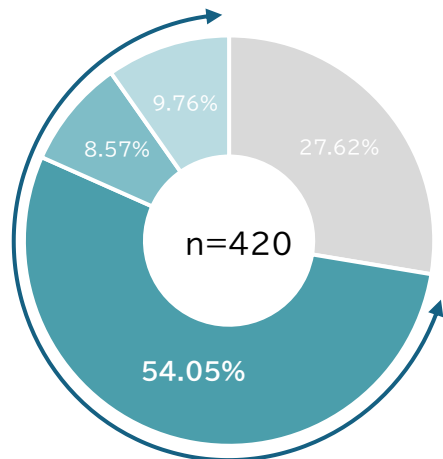


Q.現在の職業【単数回答】



回答者の最終学歴は大学卒が過半を占める構成となっている。一方、現在の就業者は会社員(正社員)が過半を占める構成となっている。

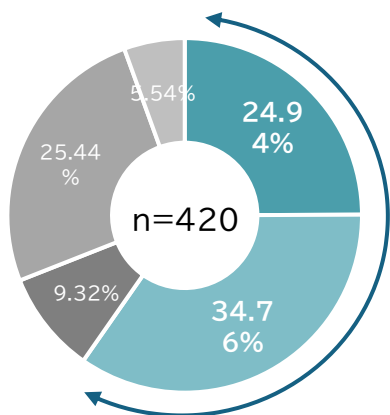
Q. 今後も西東京市に住み続けたいか【単数回答】



- 西東京市に住み続けたい
- 西東京市に住み続けたいが状況やライフステージによって引っ越すことも考えている
- どちらとも言えない
- 西東京市外に引っ越すことを考えている

市内に住み続けたいという意見が80%以上であるものの、このうちライフステージにより引っ越しを検討する方が約60%を占める。ライフステージにおいては「住宅購入」、「結婚」期に転出のきっかけとなる可能性が多数を占める。

Q. 結婚にあたり経済的な不安はありますか【単数回答】



- とても不安がある(あった)
- やや不安がある(あった)
- 全くない(なかった)
- あまりない(なかった)
- 分からない

結婚にあたり経済的な不安がある方は約60%を占める。また、このうち経済的な不安について「住居費」、「引っ越し費用」、「家具や生活雑貨の購入費用」など住居に関する項目が60%を占める。

Q. 今後ライフステージにおいて引っ越しをする可能性がある時期【複数回答】

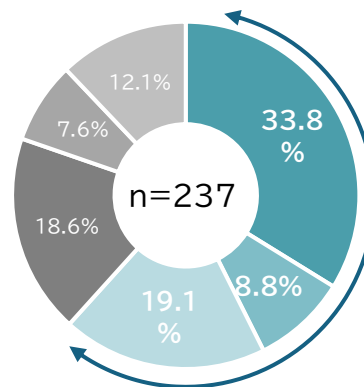
※左記回答で「西東京市に住み続けたい」と回答した方を除く

n=304

	就職	結婚	出産・子育て	住宅購入	家族の事情(介護など)
男性	28	34	13	58	20
女性	19	46	26	40	31
回答しない	4	3	0	1	1
合計	51	83	39	99	52

Q. 結婚に伴う経済的な不安は何を思い浮かべますか【複数回答】

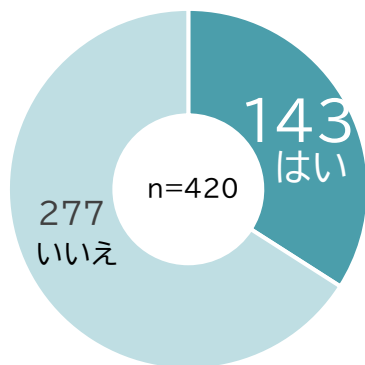
※「とても不安がある(あった)」、「やや不安がある(あった)」と回答した方



- 住居費(家賃・敷金礼金などの初期費用)
- 引っ越し費用
- 家具や生活雑貨の購入費用
- 結婚式費用
- 新婚旅行費用
- 婚約・結婚指輪の購入費用

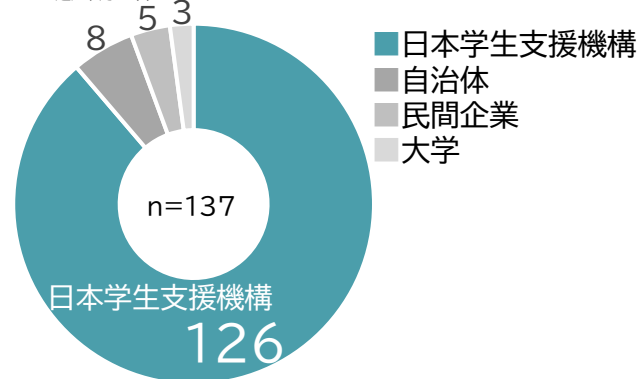
Q. 奨学金を借りたことはありますか【単数回答】

※給付型奨学金を含む

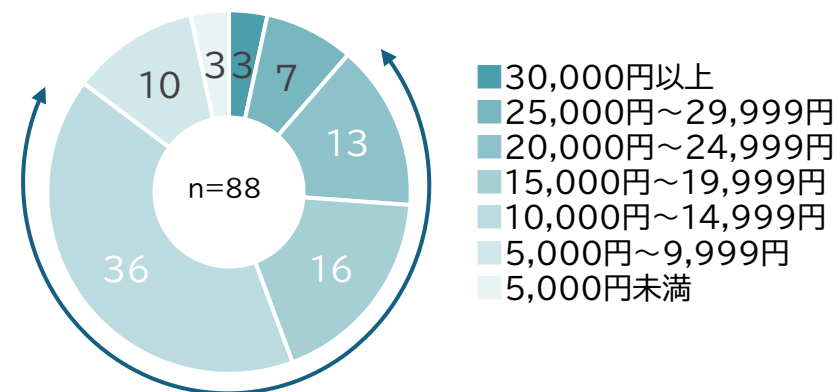


Q. 返還義務のある貸与型奨学金の借入元【複数回答】

※返還終了を含む

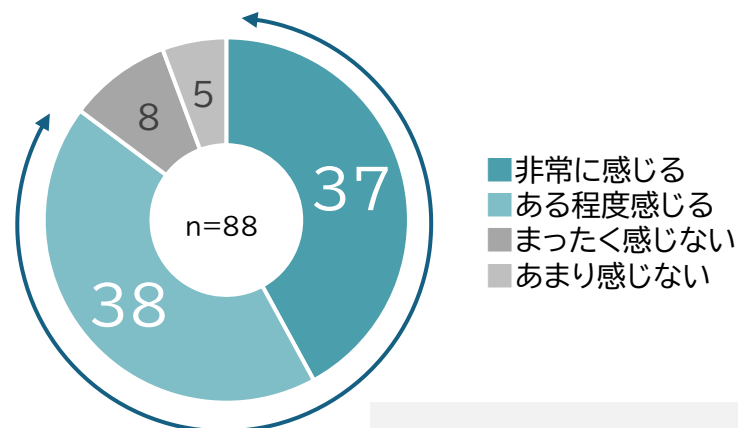


Q. 現在返還している毎月の奨学金の額【単数回答】



奨学金を借りたことがある方は143名おり、返還義務のある貸与型奨学金の借入元は日本学生支援機構が多くを占める。現在返還している毎月の奨学金は15,000円～30,000円のレンジが全体の70%を占める。

Q. 奨学金の返還による経済的な負担を感じていますか【単数回答】



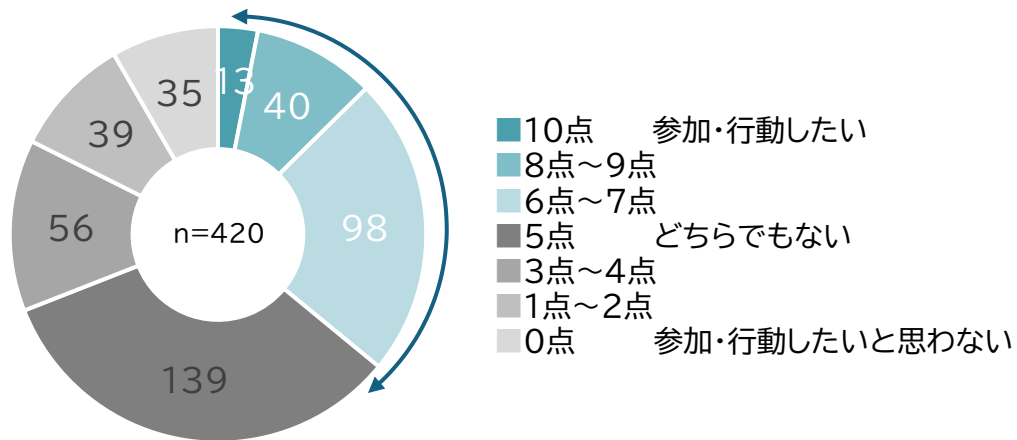
Q. 奨学金の返還が、ライフイベントに影響を与えた(または現在与えている)と感じますか【複数回答】

※ライフイベントに影響を与えるとはためらったり、遅らせる、調整する等を指す。

年収	結婚の時期	出産する時期・人数	住宅購入・引っ越し	貯蓄や資産形成	転職・独立の選択	特に影響はない	n=88
100万円未満		1	3	5	8	2	0
100～199万円		0	0	1	2	0	1
200～299万円		4	3	2	8	1	1
300～399万円		8	5	5	25	2	8
400～499万円		2	1	2	14	1	1
500～599万円		4	1	2	13	0	1
600～699万円		1	1	2	5	0	2
700万円以上		2	2	2	7	2	8
わからない・答えたくない		0	1	1	3	0	0
合計	22	17	22	85	8	22	

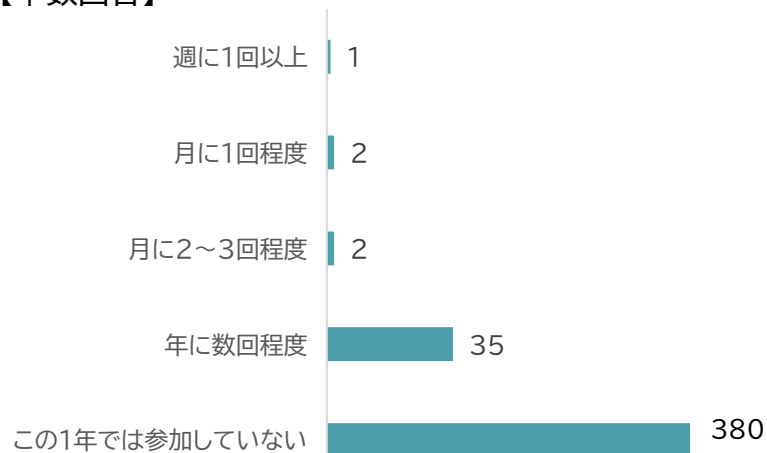
奨学金の返還による経済的な負担を85%が感じている。奨学金の返還に際し、「貯蓄や資産形成」に影響を与えていると感じている若者が大多数であった。

Q. 地域をより良くするための活動への参加や行動しようとする気持ちについて、「参加や行動しようと思う」気持ちの強さを0点から10点までで表すと、どの程度ですか【単数回答】

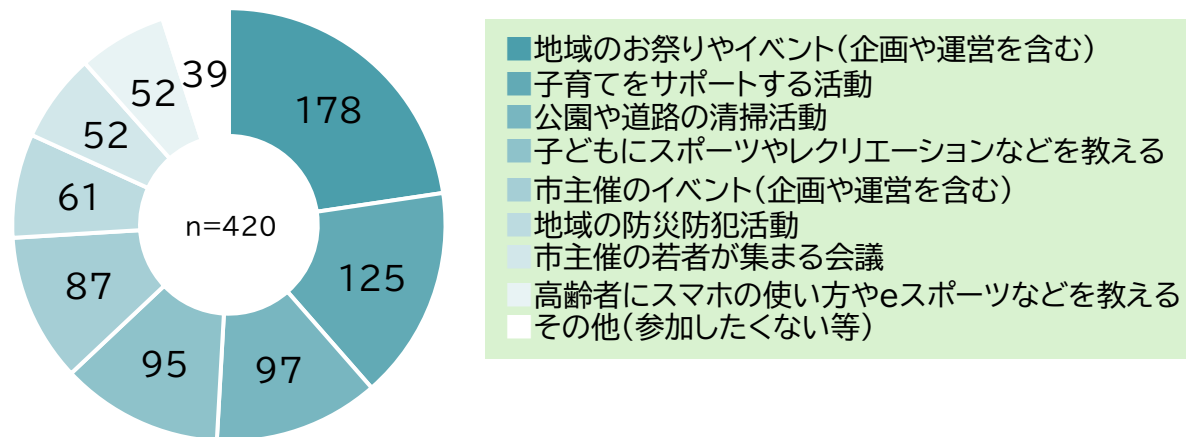


Q. 直近1年で地域活動やボランティアにどれくらいの頻度で参加していますか。【単数回答】

n=420



Q. あなたはどのような地域活動やボランティアに参加・協力してみたいと思いますか。【複数回答】



地域活動に対し、参加したい(6~10点)と思う気持ちは参加したくない(1~4点)気持ちと比較し多い。また、地域活動やボランティア活動に対し参加してみたい項目があるものの、実態としては直近1年間で地域活動やボランティアに参加している方は少数であった。